

VI 令和5年度 九州地区研究大会報告

令和5年度九州地区盲学校教育研究会

1 大会概要

- (1) 大会主題 令和5年度 九州地区盲学校教育研究会宮崎大会
- (2) 期 日 令和5年11月17日(金)
- (3) 会 場 宮崎県立明星視覚支援学校

2 内 容

- (1) 第1分科会(学習指導1)
 - ① テーマ 「視覚障がいのある幼児児童生徒の主体的な学びを育むための授業づくり」
 - ② 協議題
 - ア 表現力を高めるための指導の工夫について
 - イ 少人数における主体的・対話的な学びを引き出すための手立てについて
- (2) 第2分科会(学習指導2)
 - ① テーマ 「視覚障がい児童生徒に対する学習効果を高めるためのICT活用の在り方」
 - ② 協議題
 - ア 学習指導上、適切、効果的なICT活用について
 - イ ICT機器を活用した主体的な学習を促す工夫について
- (3) 第3分科会(生活)
 - ① テーマ 「児童生徒の自立と豊かな生活の実現を目指した生活支援」
 - ② 協議題
 - ア 学校と寄宿舎と家庭との連携について
 - イ 主体性を育む取組について
- (4) 第4分科会(特別支援)
 - ① テーマ 「視覚特別支援学校(盲学校)における自立活動の指導力向上」
 - ② 協議題
 - ア 障がいに応じた幼児児童生徒の自立活動の指導の現状と課題について
 - イ 自立活動の指導の充実や視覚障がい教育の専門性向上のための組織的な取組について
- (5) 第5分科会(理療)
 - ① テーマ 「多様化する社会のニーズに対応するための実技指導の在り方」
 - ② 協議題
 - ア 少人数化している中での生徒の技術力向上を目指す指導の工夫について
 - イ 理療科の学習(実技を含む)指導におけるICT活用の事例について

3 報 告

今年度は、本校が事務局を務め、現地開催となった。コロナ禍により3年間対面での実施が見送られてきたが、今回各校から多数の参加者が訪れ盛況であった。活発な質疑応答や意見交換がなされ、九州各県の視覚支援教育の現状を知る良い機会となった。一方で、オンライン開催であれば、各校からより気軽に参加できるため、今後の開催形態については継続して検討が必要である。また、九盲研大会の規約にある談話の取り扱いについても、今年度を契機に見直すこととなった。大会アンケートを実施し、各校からの意見を集約して次年度に引き継ぐ予定である。次年度は福岡県立北九州視覚特別支援学校が主管校である。

第 28 回九州地区聴覚障がい教育研究大会（大分大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫」
～言語能力の育成を図り、思考力・判断力・表現力を向上させるための指導・支援～
- (2) 期 日 令和5年11月10日（金）
- (3) 場所（会場） 大分県立聾学校

2 内容

- (1) 公開授業
幼稚園（年中・総合保育）、小学部（2年・国語）、
中学部（3年・数学）、高等部（2年・地理総合）
- (2) 研究協議会・分科会
早期教育・教科教育・キャリア教育
- (3) 記念講演 「聴覚障がい教育の現代的課題と今後の展望」
～聴覚障がい教育の手引き（令和2年度版）と九聴研の活動から～
阿部敬信氏（九州産業大学人間科学部子ども教育学科教授）

3 報告

大分県立聾学校は盲学校と隣接しており、双方の利用が可能な寄宿舍があるという環境である。

公開授業は参加者が各学部に分かれて参観した。幼稚園は「朝の活動」をとおして音声言語、手話を活発に使いながらやりとりしているのが印象的であった。この時のエピソードがのちの絵日記にも登場しており、日々の些細なやりとりが子供の中に蓄積されて力になる様を見せていただいたような気がした。中学部「数学科」は、タブレット等を活用して課題の手順やポイント、振り返りに必要なこと、考えの過程などを視覚的に共有できる授業実践であった。

分科会1では、乳幼児教育相談、幼稚園の取組について発表があった。乳幼児教育相談では、保護者がわが子と向き合い、家庭でできることを理解できるよう、連絡帳や振り返りシートを活用している例が参考になった。また支援者が、明るく母の気持ちに寄り添い、一緒に考え続けていくことで、保護者と子供との関係づくりへの一助となった例もとても印象的であった。指導助言では、「豊かな言葉」「心情」とは「認知能力」「非認知能力」ともいわれるものであり、単なる勘や経験ではなく、誰もが使える専門性として、残す仕組みや構造が必要だという説明が共感できた。

分科会2「教科教育」では、数学科、英語科といった教科でも語彙力、言語概念が基盤としてあることの重要性を感じた。どの取組も、様々な語彙の理解、言語概念があるからこそ、主体的に学び、理解につながることを強く感じた発表であった。

分科会3「キャリア教育」では、延岡しろやま支援学校よりレポート発表を行った。セルフアドボカシーの力を育てるための『キャリア教育プラン』の細目表作り、それをもとにした『自分ノート』の作成と地域の中学校での生徒主体の難聴理解啓発授業の様子について発表された。課題として、細目表については実際活用しながらよりよいものへ改善していくこと、また、『自分ノート』と『キャリアパスポート』をどのように融合させていくかということがあげられた。

記念講演では、アセスメントを実施してしっかり子供の姿をとらえることの重要性や、明晴学園の先進的な取組より、「多読」のもたらす語彙学習の効果といった紹介等が大変参考になった。

第57回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「福岡大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 多様な子供たちの可能性を広げる特別教育
～教育的ニーズに応じた教育実践を通して～
- (2) 期 日 令和5年12月1日(金)
- (3) 場所(会場) オンライン (Zoom ミーティング)

2 内 容

- (1)
- ① 開会行事
 - ② 分科会 1・2・3・4・5・6・7
 - ③ 記念講演 演題『多様な学びの場における特別支援教育の推進』
講師 国立大学法人 福岡教育大学大学院
教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)教授 牛島 玲 先生
 - ④ 閉会行事

【分科会 (全7分科会)】

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	日常生活の指導	教科等の目標の系統性や内容の関連性を踏まえた日常生活の指導	沖縄県・佐賀県
2	生活単元学習	教科等の目標の系統性や内容の関連性を踏まえた生活単元学習	佐賀県・長崎県
3	教科別の指導	育成すべき資質・能力を踏まえた系統的で連続性のある教科別指導	長崎県・大分県
4	作業学習・進路学習	キャリア教育の視点や学部間・学校間の接続を踏まえた作業学習、進路学習	大分県・宮崎県
5	自立活動	中心課題を明確に位置付けた個別の指導計画に基づく自立活動	宮崎県・鹿児島県
6	交流及び共同学習	インクルーシブ教育システムの理念に基づく交流及び共同学習	鹿児島県・熊本県
7	人材育成	特別支援教育に係る人材の計画的な育成	熊本県・沖縄県

3 報 告

昨年度と同様、今回の研究大会もオンラインにて開催された。記念講演では、特別支援教育の現状を踏まえ、これからの支援学校に求められる学力、通常学級における授業づくりと合理的配慮、心のバリアフリーの育成について、分かりやすく丁寧に説明していただいた。また、分科会において、各学校や児童生徒の実態把握を行ったうえで、年間指導計画や単元別指導計画表を作成し、児童生徒の実態や願いに寄り添った学習を充実することが重要という話が多くあがっていた。来年度は、佐賀県で開催予定である。

第 60 回九州地区肢体不自由教育研究大会鹿児島大会

1 大会概要

- (1) 大会の基本テーマ
「新しい時代の肢体不自由教育を考える」
- (2) 開催期間
令和 5 年 10 月 18 日（水）から 11 月 1 日（水）まで
- (3) 開催形式 <Web での開催>
第 60 回九州地区肢体不自由教育研究大会特設ホームページ

2 内 容

- (1) 役員会及び記念講演等
 - ①役員会：PTA 連合会 PTA 会長会 校長会 全体会（オンライン会議による実施）
 - ②記念講演（10 月 18 日から 11 月 1 日まで オンデマンド配信）
講師：竹内 葉子 氏
演題：「誰もが豊かに暮らす社会の実現～養護学校を卒業して社会へ出て感じたこと～」
 - ③文部科学省講話（10 月 18 日から 11 月 1 日まで オンデマンド配信）
講師：菅野 和彦 氏
演題：「新しい時代に向けた肢体不自由教育への期待」
 - ④学校公開（10 月 18 日から 11 月 1 日まで オンデマンド配信）
鹿児島南特別支援学校の開校に伴う学校紹介や授業の様子
- (2) 第 1 分科会～第 7 分科会（オンライン会議による実施）

分科会	内容
第 1 分科会	教育課程・授業改善
第 2 分科会	教科指導（準ずる教育課程・下学年 / 知的代替の教育課程）
第 3 分科会	自立活動
第 4 分科会	情報教育・支援機器の活用
第 5 分科会	キャリア教育・進路指導
第 6 分科会	PTA・地域との連携
第 7 分科会	生活指導・寄宿舎教育

- (3) ポスター発表（10 月 18 日から 11 月 1 日まで公開）
- (4) PTA 座談会（オンライン会議による実施）

3 報 告

今年度の九州地区肢体不自由教育研究大会は、前回と同様、ポスター発表や動画、大会資料などを WEB 上に公開し、役員会や分科会、PTA 座談会は、オンラインでの開催、講話や講演、学校公開はオンデマンド配信にて行われた。

役員会では、PTA 連合会、PTA 会長会、校長会、全体会が行われ、研究会の課題や今後の方向性等が話し合われた。

文部科学省講話では、「新しい時代に向けた肢体不自由教育への期待」という演題で視学官兼特別支援教育調査官の菅野和彦氏が話をされた。

記念講演では、竹内葉子氏が、「誰もが豊かに暮らす社会の実現～養護学校を卒業して社会へ出て感じたこと～」という演題で、自らの社会生活の様々な体験をもとに話をされた。

分科会は、7 分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に提案者からの発表があり、質疑応答、協議の柱を中心とした協議、指導助言と続いた。各分科会でそれぞれの学校の特色のある実践の発表があり、活発な議論が展開された。

第 51 回九州地区情緒障害教育研究会 長崎大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「子どもたちの未来へつなぐ指導・支援の在り方を考える」
～一人一人の教育的ニーズに合った支援や指導、連携の在り方を求めて～
- (2) 期 日 令和 5 年 8 月 23 日 (水)
- (3) 場所 (会場) 大村市中央公民館・シーハットおおむら
(長崎県大村市幸町25番地33)

2 内 容

○ 記念講演

講演タイトル 「発達につまずきがある子どもの心の受け止め方」
講師 川上 康則 氏 (杉並区立済美養護学校主任教諭)

○ 分科会

第1分科会：自閉スペクトラム症 (大分県・佐賀県)

提案者 山口 律子 氏 (竹田市立竹田小学校) 司会者 宮脇 寛美 氏 (大分市立野津原中学校)
「自分の本当の気持ちに気づき、相手に伝えることができる姿を目指して」

『心と体の居場所作り』～A 児の思いに寄り添って～

提案者 南川 和美 氏 (唐津市立第一中学校) 司会者 小形 由美子 氏 (唐津市立長松小学校)
「卒業後の自立を目指して」

～安心できる居場所作りとつながりの工夫～

第2分科会：LD・ADHD (長崎県・宮崎県)

提案者 江口 真治 氏 (佐世保市立相浦中学校) 司会者 服部 弘武 氏 (佐世保市立猪浦中学校)
「中学校における通級指導教室において大切にしていること」

～安心できる場所 出口を見据えて支援 多くのニーズに応える工夫～

提案者 白石 千絵 氏 (宮崎市立広瀬小学校) 司会者 矢野 美保子 氏 (宮崎市立宮崎小学校)
「よりよい人間関係づくりのための対人関係スキルの向上を目指して」

～実態把握をもとに組み立てた自立活動の指導・支援を通して～

3 報 告

記念講演では、「発達につまずきがある子どもの心の受け止め方」というテーマで、川上 康則 氏による講演が行われた。発達につまずきがある子どもの状況や、関わり方について、また、様々な手立てについて、先生のこれまでの実践事例をもとに、子ども達が将来に向かって生きていく上で必要な指導の在り方や向き合う教師の心構え等を学ぶことができ、大変好評であった。

第2分科会 (LD・ADHD) では、本県の宮崎市立広瀬小学校 白石 千絵 教諭の実践発表が行われ、「よりよい人間関係づくりのための対人関係スキルの向上を目指して～実態把握をもとに組み立てた自立活動の指導・支援を通して～」というテーマで、白石先生が担当する自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍するADHDの診断のある児童を対象とし、対人関係スキルを向上させることを目的としたさまざまな実践を紹介していただいた。綿密な実態把握をもとに、学習場面での支援を充実させることや、個別の教育支援計画を作成し、年間指導計画に基づいた様々な自立活動を展開し、指導・支援を行い子ども達にたくさんの成功体験を積ませること等、豊富な先生の実践を紹介していただき、会場でも先生の実践が高く評価され、積極的な意見交換がなされた。

第47回 九州地区難聴・言語障害教育研究会（長崎大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「これからの難聴・言語障がい教育のあり方を考える」
～子どもや保護者のニーズに応える支援や連携をめざして～
- (2) 期 日 令和5年8月3日（木）・4日（金）
- (3) 場所（会場） 長崎市民会館、男女共同参画推進センター（アマランス）

2 内 容

- (1) 記念講演 「もう迷わない！ことばの教室の吃音指導」
講師 菊池 良和 先生（九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師）
- (2) 分科会（敬称略）
 - ① 第1分科会 「構音」
《テーマ》構音に誤りのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。
【助言・レクチャー】増田 ゆかり 先生
（社会福祉法人 長崎市福祉事業団 児童発達支援センターさくらんぼ園 園長）
【提案】熊本県 沖縄県
 - ② 第2分科会 「吃音」
《テーマ》吃音のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。
【助言・レクチャー】菊池 良和 先生（九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師）
【提案】佐賀県 長崎県
 - ③ 第3分科会 「言語発達」
《テーマ》言語発達に課題のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。
【助言・レクチャー】牧野 泰美 先生
（国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員兼研究企画部 部長）
【提案】福岡県
 - ④ 第4分科会 「聴覚」
《テーマ》聴覚に障がいのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。
【助言・レクチャー】坂本 志子 先生（長崎県立ろう学校 校長）
【提案】大分県
 - ⑤ 第5分科会 「連携」
《テーマ》子どものために、どう連携し支援していくか。
【助言・レクチャー】田中 智香子 先生（大村市教育委員会 発達支援アドバイザー）
【提案】宮崎県 鹿児島県

3 報 告

近年、共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築への様々な取組が進められている。障がいのある子どもと障がいのない子どもが可能な限り共に教育を受けられる学びの場の整備と、障がいのある子どもの自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるようにするためには、教師の専門性の向上が必要である。記念講演、分科会ともに、九州各県の会員や関係者が、これまでの自分の教育実践を振り返り、成果や課題を正しく捉え、協議する場をもつことができ、大変有意義な大会となった。また、これからの難聴・言語障がい教育のあり方や果たすべき役割について、考える機会ともすることができた。